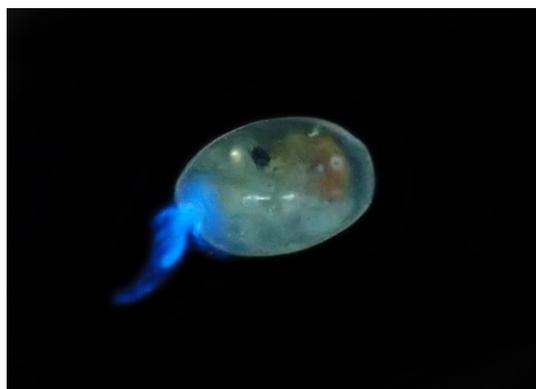


自然遊学館 だより

2016 WINTER

No.78



発光するウミホタル

2015年10月17日、岬町の砂浜でウミホタルの観察会を行いました。本誌3・4ページ参照。ゴジラのように口部から発光物質をはきだしている様子です。

2016. 1. 31 発行 貝塚市立自然遊学館

目次

*ネイチャーレポート

近木川河口のタケノコカワニナ
……………山田浩二・和田太一・児嶋 格… 1

*行事レポート

虫と星の観察会Ⅱ …………… 岩崎 拓… 2
海藻おしば製作&ウミホタル観察
……………湯浅幸子・山田浩二 …… 3

*泉州生きもの情報

トゲアリ…………… 岩崎 拓… 5
泉佐野市でオニバス出現……………山田浩二… 6

*調査速報

和泉葛城山昆虫調査2015…………… 岩崎 拓… 7

*生きものがかり

遊学館で飼育している生きもの 5 ……鈴木勝也… 9

*寄贈標本 …………… 10

*スタッフ日誌 …………… 12

 ネイチャーレポート

近木川河口のタケノコカワニナ

タケノコカワニナ *Stenomelania rufescens* は伊豆半島から九州にかけての河口汽水域に生息するトゲカワニナ科（トウガタカワニナ科）の巻貝です。和名は貝殻がまっすぐ伸びるタケノコに似ていることからつけられたようです。現在、多くの産地が失われるなど減少傾向が顕著であり、希少種として環境省の第4次レッドリストで滅危惧Ⅱ類、大阪府レッドリスト 2014 で絶滅危惧Ⅰ類に評価されています。

これまで近木川河口では2010年12月18日に稚貝1個体が採集された(山田・岩崎、2012)のみでしたが、2015年11月7日に近木川河口干潟再生地(通称:汽水ワンド)で新たな稚貝が1個体採集されました(図1)。また引き続き、同年11月28日には近木川河口の少し上流側でも稚貝が1個体採集されました(図2)。本種は卵生で浮遊幼生を経て成長すること(福田、2000)や、夏以前に繁殖期があり、夏～初秋にかけて新規加入すること(岡崎・和田、2007)が知られています。これらのことから近木川河口で採集された今回の2個体は、いずれもそのサイズから当年生まれの稚貝だと考えられます。

タケノコカワニナの大阪湾内での記録は極めて少なく、2005、2013年に男里川河口で見つかった個体についての記録は、成貝としては湾内で約80年ぶりでした(大古場ほか、2014)。近木川河口でも新規加入した稚貝が成長することにより、成貝の生息が確認されることが今後期待されま



図1. タケノコカワニナ稚貝
(近木川河口干潟再生地 2015年11月7日)



図2. タケノコカワニナ稚貝
(近木川河口 2015年11月28日)

す。大型個体は汽水域上流寄りの低塩分条件の場所に限定されることが知られていますので(岡崎・和田、2007)、近木川河口の上流域の一部にでも本種の生息に適した環境があればと思います。

【採集データ】

近木川河口でこれまで採集したタケノコカワニナ

採集日	殻高(mm)	殻径(mm)
2010/12/18	8.5	3.0
2015/11/07	10.6	3.1
2015/11/28	12.3	3.9

引用文献

大古場 正・北藤真人・石田 惣(2014) 男里川河

口に生息するタケノコカワニナ. Nature Study, 60(12):2-3.

岡崎朋子・和田恵次 (2007) 汽水性巻貝タケノコカワニナの生態分布. 南紀生物, 49 (1) : 1-5.

福田 宏 (2000) 巻貝類 I - 総論. In. 有明海の生きものたち, 佐藤正典編, pp. 100-137. 海游舎.

山田浩二・岩崎 拓 (2012) 近木川の水生物 (2010 年度調査). 貝塚の自然, 14 : 20-26.

(山田 浩二・和田 太一・児嶋 格)

行事レポート

虫と星の観察会 II

日時: 2015 年 10 月 3 日 (土) 18:00~20:00

場所: 善兵衛ランド (貝塚市三ツ松)

参加者: 20 人 (+スタッフ 7 人)

2014 年は 10 月中旬に行い、寒すぎてマツムシとハラオカメコオロギの 2 種しか鳴き声を聞くことができなかつたので、実施時期を早めることにしました。9 月 29 日の下見の時に、北側の小山の斜面が草刈りされていて、マツムシや他の鳴く虫が草むらから低木の植木に移動していることが分かったので、そこでマツムシの鳴く姿を見てもらうことにしました。

植木の中からマツムシの鳴き声は聞こえるのですが、下見の時のようには簡単に姿が見つからず、時間ばかりが過ぎていきます (図 1)。昨年と同じく採集役として参加していただいた澤田義弘・智子夫妻や参加者の協力で、何とか鳴き声を聞いたマツムシ、アオマツムシ、エンマコオロギが採集でき、ほっとしました。



図 1. 何がいるのかな?

澤田夫妻には、他にも、ハラオカメコオロギ、シバズ、カネタタキ、ホシササキリ、サトクダマキモドキを採集していただきました。この中で、サトクダマキモドキの鳴き声だけは聞けませんでした。沈む間際の土星を善兵衛ランドの望遠鏡で見た後、研修室での鳴く虫スライドの解説時に、採集した鳴く虫を参加者に見てもらうことが出来ました。

下の写真は、9 月 29 日の下見で撮影したマツムシのオス成虫です (図 2)。コオロギの仲間なので、翅を立てて鳴きます。



図 2. マツムシのオス成虫
(貝塚市三ツ松、2015 年 9 月 29 日撮影)

スライド解説では、それぞれの種の鳴き声の「高低」を中心に、話をしました。

少し音を聞いてもらう種数が多すぎたかなと反省しています。そんなに急には覚えられないですね。動画は当館スタッフが撮影したのですが、音だけのものは、「虫の音ワールド (<http://mushinone.sakura.ne.jp/>)」というサイトからダウンロードしたものです。興味のある方は、そのサイトで「聞く練習」をして、徐々に聞き分けられる種数を増やしていくと良いと思います。

(岩崎 拓)

海藻おしば製作&ウミホタル観察

日時：2015年10月17日(土)14:00～20:00

場所：せんなん里海公園(岬町)

大阪府立青少年海洋センター(岬町)

参加者：27人

今回は「海の学びサポート事業」の第9回企画、「海をきれいにするために自分たちでできることは何だろう」のテーマで、海藻おしばづくりと、ウミホタル観察を行いました。

貝塚市役所前に午後2時に集合、せんなん里海公園へと貸切バスで出発しました。車内で挨拶、行事概容説明をし、15時前にせんなん里海公園に到着しました。

2階の会場に移動。まずビデオを見ながら河原美也子先生(海藻おしば協会認定講師)から海藻の話聞き、その後海藻おしば作成方法を教えて頂きました。色々な海藻おしば作品も飾ってあり、海藻でこんなにきれいな作品ができる、と参加者全員さ

っそく作業に集中(図1)。「海藻が思うようにひろがらない、重ね具合も難しい。海藻の色や形はこんなに様々、自由な造形ができる」などの声があり、少しの難しさはありましたが、楽しくおしば作りができました(図2)。



図1. 海藻おしば製作

出来上がった作品は、河原先生がお預かりして乾燥させた後、ラミネートをして、後日参加者の元へ返送して頂きました。



図2. 海藻おしば作品例

続いて、ウミホタルの観察のため海洋センターへバスで移動しました。

17時会議室で夕食をとり、砂浜での足元を照らすランタンにするカップに絵を描いてもらいました。その後、ウミホタルについて事前学習会をしました。ウミホタルは砂地のきれいな海に棲む3mmほどの夜行性の甲殻類で、近隣に川が流れるような低塩分の海域の砂地では棲息しにくいことや、刺激で光る物質を出すことで発光するなどの話をスライドを用いて行いました(図3)。採集容器の手作りの仕方や採集方法を説明したあと、各自採集容器に魚のアラなどの餌をいれて準備をしました。



図3. ウミホタルについて解説

18時半、砂浜に移動。突堤のところからロープをつけた仕掛けの容器を海に沈め、30分ほど待ちます。その間、先ほど絵を描いたカップに砂を入れ、ロウソクをたてたランタンを作り、階段から砂浜、突堤へと設置、足元を照らしました。

ロープをひいて採集容器を引き上げると、ウミホタルがたくさん入っていました。この容器の中に、用意していた海水の氷をいれると、刺激で青白く光る様子に歓声が

あがりました(図4)。少し地面にこぼして箒で掃きながら海にもどすと、満点の星空の中の流星のような青白い光の筋がいくつも見えました(図5)。



図4. 発光物質を出すウミホタル



図5. 発光する無数のウミホタル

昭和の一時期、大阪湾の汚染がひどかった頃にはウミホタルが大阪では見ることができなかったようですが、昨今は泉州各地の砂浜海岸で見られ、海がきれいになってきたことを象徴する生きものだと思います。今宵、バスの車中ではウミホタルの幻想的な輝きの余韻を胸に、帰路につきました。

(湯浅 幸子・山田 浩二)

泉州生きもの情報

トゲアリ

昨年の8月4日、千石荘を一周して昆虫調査を終えようとしていた時、路上にニイニイゼミの死体があり、アリがたかっていました（図1）。



図1. ニイニイゼミの死体にたかるアリ
(貝塚市名越、2015年8月4日)

「千石荘でムネアカオオアリの記録はあったかな？」と考えながら、暑さに負けて疲れ切っていたので、デジカメのモニターも見ずに適当に何枚かシャッターを切りました。「これやったら自分が撮ってるんか、カメラが撮ってるんか分からんな～」と思いながらです。

ムネアカオオアリは、自然遊学館の記録では、和泉葛城山の山頂の標本が多く、その他、蕎原から木積と馬場にかけての標本もありましたが、千石荘の標本はありませんでした。

自然遊学館に帰ってから、いちおう採集しておいた1個体をよく見ると、ムネアカオオアリではなく、背面にトゲがあるトゲアリだと分かりました（図2）。



図2. トゲアリ（♀）
(貝塚市名越、2015年8月4日採集、体長8mm)

これまで自然遊学館に標本がない種で、貝塚市産アリ科で56種目の記録となりました。

トゲアリは一時的社会寄生をするアリとして知られています（日本産アリ類データベースグループ執筆の『学研の大図鑑・日本産アリ類全種図鑑』のp. 18-19に分かりやすい解説があります）。

交尾を終えたトゲアリの雌アリは単独でクロオオアリやムネアカオオアリの巣に侵入して、その女王を殺し、残された働きアリに自分が産んだ子の世話をさせて、徐々に巣を乗っ取る、という繁殖戦略を持っているそうです。千石荘ではクロオオアリの記録があるので、その巣が乗っ取られているのかもしれませんが。

翌日、未練がましく、その場所に行きましたが、ニイニイゼミの死体さえありませんでした。後の祭りです。結局、写真はピンボケのものばかり、標本は1点だけという後悔多々ありの採集となりました。

(岩崎 拓)

泉佐野市でオニバス出現

2015年9月から11月にかけて自転車で通勤する際、ルートの中のそばにある池でオニバスが繁茂しているのを確認しました。場所は泉佐野市南中樫井にある樫ノ池で、池一面を覆い尽くさんばかりにオニバスの大きな浮葉が多数見えました（図1）。9月には葉ばかりでしたが、10月を過ぎた頃からは葉と葉の間から多くの花のつぼみらしきものが水面から出てきていました（図2）。これから紫色の花が咲くものと楽しみにしていましたが、11月を過ぎる頃には徐々に葉も枯れ出し、つぼみと思っていたものも開かずまま水中へ沈んでいきました。

図鑑で調べると「水面に咲く開放花と水中で閉じたまま受粉する閉鎖花があり、いずれも水中で結実して種子が多数浮遊してくる」とありました。植物がご専門の大阪市立自然史博物館の長谷川匡弘学芸員にも写真を見て頂くと、「水面から出たものはすでに果実の状態。つぼみであればこんなに子房の部分が丸く膨らみません。水位がやや下がった状態になり、閉鎖花の果実が大きく水上に出てしまっているのでは」とのことでした。

本種は一年草で、種子は休眠状態で数十年間は生存可能であることが知られており、今年見られたからといって、また同じ池で見られるのは何年後になるかわかりません。また、環境の悪化等で自生地が消滅が相次ぎ、環境省レッドリスト、大阪府レッドリスト 2014 とも絶滅危惧Ⅱ類に評



図1. オニバスの群生
(泉佐野市南中樫井、2015年9月14日撮影)



図2. オニバスの群生
(泉佐野市南中樫井、2015年10月23日撮影)

価されています。泉佐野市では2008年9月22日にも大藪池でオニバスが見つかり、当時、館の職員であった白木江都子さんと採集し、大阪市立自然史博物館へ寄贈したことがあります。

当館に展示しているオニバスの標本は、貝塚市石才の田村池で2002年10月7日に採集されたものです。この時には紫色の花が水面で咲いているのを見ることができ、その写真を展示していますが、案外花を見るチャンスは少ないのかもしれない。

(山田 浩二)

 調査速報

和泉葛城山昆虫調査 2015

2015年も和泉葛城山の山頂付近で4月から12月までの各月に1回ずつ3時間程度の昆虫調査（ルートセンサス・任意調査）を行いました。その結果、および2008年以降の結果との比較を以下に記します。

1. 大阪府レッドリスト種

2000年に発行された大阪府レッドリストは2014年に改訂されました。2015年の調査では、大阪府レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているナキイナゴ、準絶滅危惧に指定されているミヤマアカネ（図1）、ヒトコブササキリモドキ、ハルゼミ、エゾゼミ、セダカテントウダマシ、スミナガシ、ホソバセセリ、アオバセセリ（図2）を確認しました。ハルゼミとエゾゼミは鳴き声による確認です。

改訂前はランク外だったナキイナゴは絶滅危惧Ⅱ類へ、ミヤマアカネ、ハルゼミ、ホソバセセリはランク外から準絶滅危惧に入りました。それぞれ大阪府全体では絶滅の危険が高まっていると判断されたようです。



図1. ミヤマアカネ
（トンボ目トンボ科、2015. 8. 6）



図2. アオバセセリ
（チョウ目セセリチョウ科、2015. 5. 14）

この中では、ヒトコブササキリモドキ、ハルゼミ、エゾゼミ、ホソバセセリはほぼ毎年確認されていて、山頂付近では安定した個体群を維持しているものと考えられます。

2014年の改訂でランク外からいきなり絶滅危惧Ⅰ類へ「昇格」したカヤコオロギは、2008年以降まったく確認されていません。山頂付近のカヤコオロギは分布の中心が和歌山側の草原で、展望台付近が分布の北端になります。その草原の背丈が高くなってきて、生息に適さなくなってきたのかもしれない。

2. 注目種

注目種は暫定的なものです。目安としては、山地性で貝塚市内での分布が山頂付近にほぼ限られるもの、大阪府レッドリストの改訂でランク外とされたもの、和歌山県レッドリストの指定種などからリストアップしています。

2015年調査で確認されたものは、チビクチキウマ、エゾツユムシ（図3）、ニホントビナナフシ、オオトビサシガメ、ツノアオカメムシ、ツマジロカメムシ、ミヤマカメ

ムシ、トホシカメムシ、アサギマダラ、シダクロズメバチです。いずれも前回の確認年から、それほど経っていません。



図3. エゾツユムシ
(バッタ目ツユムシ科、2015. 8. 6)



図5. ツマジロシャチホコ
(チョウ目シャチホコガ科、2015. 9. 2)

最後に、紹介した種の確認日(2015年の月/日)を示しました。日付の後の「*」印は幼虫での確認を示し、無印は成虫での確認です。

3. 標本がなかった種

自然遊学館に標本がなく初めて確認された種は、ケフカオナシカワゲラ、ケブカヒラタゴミムシ、クロアシナガコガネ、コヤマトヒゲブトアリヅカムシ、クビカクシゴミムシダマシ、オオイシアブ(図4)、ヒラタコエグリトビケラ、ベニスジエダシャク、ギンモンカギバ、ツマジロシャチホコ(図5)です。これらのうち、オオイシアブ、ギンモンカギバ、ツマジロシャチホコは撮影後に逃げられてしまったので、標本にできませんでした。



図4. オオイシアブ
(ハエ目ムシヒキアブ科、2015. 6. 10)

大阪府レッドリスト種

- ナキイナゴ 7/8
- ミヤマアカネ 8/6、9/2
- ヒトコブササキリモドキ 8/6、11/5
- ハルゼミ 5/14、6/10、7/8
- エゾゼミ 8/6、9/2
- セダカテントウダマシ 7/8
- スミナガシ 8/6
- アオバセセリ 5/14
- ホソバセセリ 8/6

私的注目種

- チビクチキウマ 8/6
- エゾツユムシ 8/6
- ニホントビナナフシ 8/6*
- オオトビサシガメ 11/5
- ツノアオカメムシ 9/2
- ツマジロカメムシ 9/2*、11/5
- ミヤマカメムシ 6/10
- トホシカメムシ 8/6、10/8
- アサギマダラ 6/10、7/8、8/6、11/5

シダクロスズメバチ 12/2

標本がなかった種

ケフカオナシカワゲラ 4/9

ケブカヒラタゴミムシ 6/10

クロアシナガコガネ 5/14

コヤマトヒゲブトアリヅカムシ 10/8

クビカクシゴミムシダマシ 6/10

オオイシアブ 6/10

ヒラタコエグリトビケラ 4/9

ベニスジエダシャク 6/10

ギンモンカギバ 9/2

ツマジロシャチホコ 9/2

ヒラタコエグリトビケラとケフカオナシカワゲラは森本静子さんに、ケブカヒラタゴミムシとクビカクシゴミムシダマシは森康貴さんに同定していただきました。ここに謝意を表します。

(岩崎 拓)



近木川下流水槽

上流域には、オイカワ、カワムツ、タカハヤなどが生息しています。上流水槽では、夏場、下流水槽より水温を下げています。上流水槽ではこれら3種類の魚を飼育しています。

下流、中流、上流と同じ川でも、生息している生きものが少しずつ変わっていて、調べてみると面白いと思います。



近木川上流水槽

自然遊学館の上流水槽の大きさは縦 150 cm、横 50 cm、奥行き 50 cm になっていて、下流水槽は縦 175 cm、横 50 cm、奥行き 50 cm になっています。この大きさの水槽をアクリルやフィルター掃除などをするときはすごく時間がかかり、大変です。

おまけ

2011年ごろから、近木川下流のほうにアユがたくさん来ているのが知られるようになりました。海から入ってくるアユなのですが、紀ノ川生まれの可能性が高いと僕は思います。毎年9月に「近木川のアユ調べ」という行事をしています。

いきものがかり

遊学館で飼育している生きもの5

今回は、貝塚市を流れている近木川の生きものを紹介していきたいと思います。自然遊学館では、近木川の下流域、上流域の生きものに分けて、飼育しています。

まず、下流域の生きものです。近木川下流域に住んでいる生きものというコイの仲間やボラの仲間・クロベンケイなどのカニなどがいます。最近では、ゴクラクハゼというハゼの仲間が見つかるようになりました。下流水槽では、ギンブナとゲンゴロウブナを飼育しています。



アユ剥製

(鈴子 勝也)

 寄贈標本

<菌類>

- ◆山口征一郎さんより
ヒイロタケ 1点
貝塚市二色 2015年12月4日採集

<哺乳類>

- ◆沖原均さんより
イタチの一種 死体1点
貝塚市二色 2015年10月8日採集

<鳥類>

- ◆松本斎さんより
キョウジョシギ 死体1点
貝塚市近木川河口
2015年10月18日採集
- ◆山奥りゅうせい・村上真大・川崎佑宇・
山田かん大・清水恒良・山奥悠飛さんより
シロハラ 死体1点
貝塚市二色 2015年11月3日採集
- ◆三俣二生さんより
シロハラ 死体1点
貝塚市中 2015年11月13日採集

<爬虫類>

- ◆西出康介さんより
ヘビの一種 抜け殻1点
岸和田市三田町 2015年10月15日採集
- ◆食野俊男さんより
アオダイショウ幼蛇 生体1点
貝塚市近木川河口
2015年10月15日採集

<両生類>

- ◆西出康介さんより
ヌマガエル 生体3点
岸和田市三田町 2015年10月15日採集

<魚類>

- ◆福島秀人さんより
カサゴ 生体6点
イシダイ 生体1点
キュウセン 生体1点
メバル 生体1点
泉佐野市りんくう往来北
2015年10月4日採集
- クジメ 生体1点
キュウセン 生体4点
泉佐野市りんくう往来北
2015年10月18日採集
- ◆東優太さんより
カワヨシノボリ 生体21点
泉佐野市上之郷 2015年10月12日採集
- ◆新谷幸太さんより
ウナギ幼魚 生体1点
オイカワ幼魚 死体1点
貝塚市近木川新井井堰
2015年10月20日採集

- ◆矢吹隼人・田中翔さんより
魚の一種の骨 死体 1点
貝塚市二色の浜 2015年11月7日採集

- ◆覚野信行さんより
ドロメ 生体 1点
田尻町マーブルビーチ
2015年11月7日採集

- ◆黒岩直美さんより
コンゴウフグ 生体 1点
貝塚市二色の浜 2015年11月21日採集



- ◆森本静子さんより
ドジョウ 生体 1点
貝塚市馬場 2015年11月23日採集

<軟体動物>

- ◆児嶋格さんより
タケノコカワニナ 成貝標本 3点
男里川河口ヨシ原 2014年6月14日採集

- ◆東優太さんより
カワニナ 生体 25点
ヒメタニシ 生体 9点
泉佐野市上之郷 2015年10月12日採集

<節足動物>

- ◆東優太さんより
モクズガニ 生体 1点

貝塚市近木川下流
2015年10月5日採集

<昆虫>

- ◆新屋正裕さんより
マツアワフキ 成虫 1点
貝塚人工島 2015年10月1日採集
- ◆西出康介さんより
ハラビロカマキリ 成虫 1点
貝塚市脇浜 2015年10月3日採集
- ホシササキリ 成虫 1
エンマコオロギ 成虫 4点
オンブバッタ 成虫 7点
クルマバッタモドキ 成虫 4点
貝塚市脇浜 2015年10月4日採集
- クビキリギス 幼虫 1点・成虫 1点
ウスイロササキリ 成虫 5点
コバネイナゴ 成虫 2点
オンブバッタ 成虫 5点
岸和田市三田町 2015年10月15日採集

- ◆澤田義弘さんより
ヤマトシリアゲ 成虫 1点
貝塚市三ツ松 2015年10月3日採集

- ◆常道武士さんより
ベッコウバエ 成虫 1点
貝塚市澤 2015年11月19日採集
- ベッコウバエ 成虫 1点
貝塚市澤 2015年11月21日採集

- ◆三宅壽一さんより
クロコノマチョウ 成虫 1点
阪南市緑ヶ丘 2015年11月22日採集

- ◆山口征一郎さんより
フクラスズメ 成虫 1点
貝塚市二色 2015年12月4日採集

<寄贈写真>

◆五藤武史さんより

クロスジホソサジヨコバイ 1点
高石市高師浜 2015年10月25日撮影

◆藤村雅志さんより

コグンカンドリ 4点
近木川河口 2015年11月24日撮影
ズグロカモメ 4点
近木川河口 2015年11月25日撮影



コグンカンドリ
近木川河口、2015年11月24日
藤村雅志さん撮影



ズグロカモメ
近木川河口、2015年11月25日
藤村雅志さん撮影

コグンカンドリの大阪湾での記録はたいへん珍しいため、念のために、和田太一さんと納家仁さんに同定の確認をしていただきました。

コグンカンドリもズグロカモメも自然遊学館の記録にない種で、それぞれ累積で191種目と192種目になりました。

スタッフ日誌

10月5日、木島小学校4年の近木川学習授業で動植物や河原の石の話をして、10月19日に三ツ松大橋の上流側で現地学習を行いました。川の生きものでは、魚がオイカワ、カワムツ、ドンコ、タモロコ、カワヨシノボリの5種、甲殻類がモクズガニ、ミズムシ、ミナミヌマエビの3種、その他、ヌマガエル、ヒルの仲間、コヤマトンボの幼虫などを採集しました。(岩・山・湯)

10月9日、参加者3人の方と千石荘調査を行いました。これまで皆勤の北田誠さんは、トンボ観察のベテランで、この日も、稲刈りの終わった水田でアキアカネのペアを見つけられました。アキアカネは大阪府でも減少し、2014年のレッドリストの改訂で、新たに「準絶滅危惧」に指定されてしまいました。今回は、畔に生えた草に止まっているところを撮影することが出来ました。(岩)

10月11日、遊学館とよく名前を間違えられる海遊館の25周年記念シンポジウム「生物多様性ってなんだろう？」に参加してきました。当館からはパネル展示という形で、「二色の浜のアマモ場の生きもの」を紹介してきました。終了後、海遊館の西田館長自らが熱く語るバックヤードツアーをして頂き、勉強になりました。(山)

10月28日、木島西幼稚園に昆虫の話をしてに行きました。自然遊学館に展示している街中の昆虫、里山の昆虫、近木川中流のトンボの標本箱の説明や、園に持ち込まれた

マムシの話をした後、運動場の周りで昆虫を探しました。あまり生きものがいないのかなと思っていましたが、大勢で探すと、オオカマキリやその卵囊、モンシロチョウ、ハスモンヨトウとセスジスズメの幼虫などが見つかりました。その他、死体や殻だけになっていましたが、ケラの幼虫、アマガエル、ヌマガエル、スクミリンゴガイ、イオウイロハシリグモなどが見つかりました。(岩)

11月5日、和泉葛城山に昆虫調査に行きました。山頂のブナ林は、「景観全体が紅葉で美しい」とは言えませんが、所々に美しい様子を見せてくれました。ただ、この時期に気温が18℃もあるというのは、暖か過ぎだと思えます。調査の間に出会った人を外観から判断すると、バードウォッチング6人、登山4人、自転車3人、バイク3人、デート2人となり、虫は自分だけでした。大きなレンズのカメラを構えている人たちが狙っている鳥は分かりませんが、アトリという鳥を数羽見ました。(岩)

11月29日、毎年、葛城緑の少年団は、和泉葛城山のゴミを回収しながら周辺の自然観察も行っています。今年はトラスト協会の葛城山ハイキングも同じ日に行われていました。緑の少年団はBコースから、トラストはAコースから登るため、一緒には行けませんでした。館からは、山田、湯浅が参加し休憩場所で植物の紹介をしました。枇杷平では、ウバメガシを見てもらい、展望デッキ前では、ブナの葉を拾ってその特徴、ブナ林の現状などの話をしまし

た。今年は紅葉は数本色づいている程度でした。(湯)

12月16日、世間の歳時を館内でも少しは感じられるよう、クリスマスの装飾をほどこしました。クリスマスツリーはてっぺんの星の代わりにマヒトデを使用したほか、オーナメントにナナミノキ、モミジバフウ、ビナンカズラ、スズメウリ、カラスウリ、センダン、マツボックリ、マテバシイを使用しました。歳時を取り入れることで一年を通じて季節感のあまりない館内に表情が生まれ、来館者にとって居心地の良い空間につながっていけばと思います。(山)

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2016 冬号 (No. 78)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2016. 1. 31

この小冊子は庁内印刷で作成しています。